

# 恒暗条件下で培養したミドリゾウリムシの共生クロレラは 宿主食胞内での消化酵素耐性を失う

児玉 有紀<sup>1</sup>, 藤島 政博<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>高知大・理・生物科学, <sup>2</sup>山口大・院理工・環境共生系)

**【要旨】** クロレラを除去したミドリゾウリムシへの再共生に成功するクロレラは、宿主のリソソームが融合した食胞内で一時的に消化酵素耐性を示す。しかし、食胞内に取り込まれた全てのクロレラが消化酵素耐性を示すのではなく一部のクロレラのみがこの耐性を示す。その要因を明らかにするために、恒暗条件下で培養したクロレラをクロレラ除去細胞に与えたところ、クロレラの大部分は食胞内での消化酵素耐性を失うことが明らかになった。この結果は、クロレラが消化を免れるためには、再共生前のクロレラの光合成が必要である可能性を示唆している。